



管理型処分場跡地に9030枚のパネルを設置

最終処分場跡地で メガソーラー事業

大栄環境 関西の民間企業で初

大栄環境はこのほど、関西圏の民間企業では初となる、管理型最終処分場跡地（大阪府和泉市）を利用したメガソーラー発電施設「DINS（デインズ）メガソーラー」を竣工、売電を開始した。

同社は別の処分場跡地ではリサイクル品や再使用品を活用した環境公園を造るなど、最終処分場跡地のさまざまな有効利用に取り組んでいる。今回の施設の設置面積は約3万平方メートル、パネル

枚数は9030枚で発電出力は9.7キロワット。年間発



DINSメガソーラーの全景

電量は一般家庭約640世帯分に相当する230万キロワット時。再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）を利用して、

関西電力に全量売電する。2012年に当該処分場の埋め立てが終了。昨年6月からメガソーラー施設建設に着手した。同社では「当初埋め立て終了後はずでにある環境公園のような緑を共存させた複合施設の建設を想

定していたが、原発事故、その後のFITの動きなどからエネルギー施設の設置を決めた」とする。

同社は今年度から「事業の持続性を高め、環境創造企業として進化する」という経営ビジョンのもと「第6次経営計画」に取り組み。その中の主要施策の一つとして「新たなエネルギーの創出」を掲げ、同メガソーラー以外にも木質バイオマス発電や焼却炉から回収した熱を貯蔵し外部に運搬・提供する「トランズヒートコンテナシステム」などに取り組んでいる。「DINS」は「Daii Inter Nature System」の略で、「人間生活・産業・自然との共生」を目指す同社のキャッチフレーズを表している。